

## 「緊急開催！黒岩知事との対話の広場」

～かながわスマートエネルギー構想の実現に向けて～

平成23年11月3日（木曜・祝日）相模原会場

### （知事）

おはようございます。神奈川県知事の黒岩祐治です。今日はお休みにもかかわらず朝早くからお越しいただきまして本当にありがとうございます。就任して6ヶ月半が経ちました。いのち輝くマグネット神奈川を実現したいということを掲げてやってまいりました。その中で皆様ご承知のとおり、選挙のときに、太陽光発電を一気に普及させるんだということを最大のマニフェスト、公約として掲げてまいりました。それをこの9月の議会のときに、2020年を目標とする新しい「かながわスマートエネルギー構想」ということを改めてご提示いたしました。選挙で言っていたことと、2020年の新しいバージョンで掲げたことについて、どういうふうに繋がっているのかということについて、私は直接皆様にご説明をしたいと思っております。このへんのところを聞いてみたいという思いを持っていらっしゃる方が来てくださっていると思いますので、どんどん聞いてください。率直に聞いてください。全部私がお答えいたします。全部といっても分からないときは事務局に助けてもらいますけどね。ということで、まずそもそも私がどうして太陽光発電を一気に普及させるべきだということを掲げたのかということから説明したいと思います。

私が立候補したのは、3月24日からの選挙戦でありましたが、立候補の決意をしたのは3月16日のことでした。8日間しかなかったんです。実は。そのときの状況はどういう状況だったかといいますと、当然のごとく、3月11日の直後です。あのときは、計画停電というのをやっていました。福島第一原発事故が起きたんだと。あの当時はそれほど大変な事故だという認識はなかったかもしれないです。政府の発表が「大丈夫です、大丈夫です。」というようなことに重きを置かれていたような気が私もありました。しかし、福島第一原発が当面復旧は無理だろうという感じはありましたね。そんな中で計画停電が行われた。そういったときの選挙戦のスタートだということだったんですね。

そのときに私は街へ出て、いろいろ皆さんと直接対話しながら選挙戦を始めたんですが、驚きましたね。箱根に行った。鎌倉に行った。人が全然いないんですね。箱根湯元の駅前のお土産物屋さん、あそこに行って選挙活動しようと思ったんですよ。お客さんが全然いないんですよ。それでお店の人に聞いてみたら、計画停電が始まっちゃったらお客さんが全然来なくなっちゃったって。しかも日本人よりも外国人が敏感で、放射能ということで全部来なくなっちゃった。このままの状態が続けば、箱根の旅館は夏までもたないですと言われました。私はもう、これは大変なことになるなと思いました。私は東日本大震災の事故、大震災によって東北地方が大変なことになったなど、ここを何とかして救わなきゃいけないな、と思っていたんですが、実際神奈川をあのとき選挙で歩き回ってみたときに、東日本は大変だけど、この神奈川も大変だぞ、と思いました。もしかしたら神奈川、旅館が潰れれば、箱根の旅館が潰れれば、その納入している業者も全部潰れる。そうすると、神奈川の経済が一気に瓦解するかもしれないという大変な危機感を持ちました。早く何とかしなきゃいけないって。

でもあの福島第一原発があれだけのことになってすぐにどうするのかと、まず頭にあった

のは夏の冷房需要。あのときは段々春になって段々暖かくなってきましたけど、ところが夏の冷房需要がすぐ目の前に来ている。このときに、また計画停電なんてやるような状態であるならば、そのときに本当に神奈川の経済が崩壊するかもしれないという危機感を持ちました。じゃあ、どうすればいいんだ。時間との戦いだ。圧倒的なスピードでこのエネルギー不足を補うために一番いいのは何だろうといったときに考えたのが太陽光発電でありました。

これも私が突然思い付いたというわけではなくて、実は、不思議なことなんですが、私は別にエネルギーの専門家ではありませんけれども、たまたま「太陽経済の会」という中に入っていたんですね。4年くらい前から。で、これ、シンクタンク、民間のシンクタンクみたいなものですね。それで、時代の認識。19世紀は石炭経済の時代だった。20世紀は石油経済の時代だった。21世紀は原子力、ではなくて太陽経済の時代だ。という認識の下に、その勉強会をずっと続けていたんですね。

そうだ、これだと。この太陽光発電、これを今こそ一気に持ち出すべきだ、と思って、立候補を決めてから、その「太陽経済の会」の主要メンバーを緊急招集いたしまして、そして一気にまとめ上げた構想、これを「かながわソーラーバンク構想」ということで選挙戦のときに打ち上げました。そしてその非常に優秀なスタッフ、これは原子力発電所の設計者なども入っていたんですよ。こういうメンバーで、どれくらいできるかなと、「神奈川でどれくらいできるかな、4年間でパネルどれくらいできるかな。」と言ったら、「こういうのは一気に加速していきますから、動き始めれば。だったら神奈川の世帯の半分くらいいけますよ。」って。「そのくらいいけるかな?」「いけますよ!」と言うから、「じゃあ、200万戸分だ。」という数字を出しました。そのときに、そんな数字なんか出さないほうがいいって言う人もいました。そんな数字を出すと、数字についていつまでもいつまでも言われるぞ、と言われました。しかし、どう言えばいいのかな。たくさん付けます、というのはメッセージ力としては極めて弱い。「200万戸分付けるんだ!」という強い決意だってことを示すことは、これは大事なことなんじゃないかなと。そのときに、「夏の冷房需要、早くしなくてはいけない、夏の冷房需要に間に合わせるためにはどれくらいできるか。」って言ったら、「5万から10万戸くらいいけますよ。」って言って、「じゃあそれも言っちゃおう。」って、この2つの数字を提示いたしました。

で、街へ出て、私はその「太陽光発電だ!太陽経済の時代だ!」というふうに言いましたけれど、見ていると今ひとつこう伝わってないな、という感じがしてならなかったんですね。なぜ伝わってないのかな。太陽光発電って言っても皆さん何のことかよく分かってないって感じがしたんですね。話をしていると、「ああ、あの太陽の熱でお湯沸かすやつですか。」と言うから、「それは太陽熱の温水器ですから。」って言って、ああ分からないんだなと思って、ソーラーパネルを借りてきました。ソーラーパネルを借りてきて、「これだ!」って見せました。でも、今ひとつまだ皆さんのもとにメッセージが届いてないなと思った。

どうすればこの思いが伝わるかなといったときに、段々状況が変わってきました。福島第一原発の事故は実は大変な事故が起きていたんだなと段々分かってきました。放射能もどうも漏れているようだぞと分かってきました。そのときに、そこの気持ちとリンクさせた言い方、これをどうすればいいのかなと思って、街で語っていました。「脱原発」と言いました。反原発じゃないです。「脱原発」。その原子力に依存したエネルギー体系から早く脱していかなきゃいけない、すぐに全部やめちゃうってことじゃなくても、早く脱していかなきゃいけないって意味で、「脱原発」と言いました。そうしたら道行く人がピタッと足を止めてくれて、こっちを向いてくれました。そのとき、「これが皆さんを救えるんです。」とソ

ーラーパネルをお見せしました。そして、おかげさまで知事選挙、当選させていただきました。当然のごとく、このソーラーパネルを一気に普及させていくということが私の最大の使命となりました。

4月10日に当選させていただきましたが、初登庁は4月25日です。2週間ある。この2週間待ってられないという思いがありまして、実は密かに県庁に忍び込みました。初登庁の前に忍び込みました。そして県庁職員に集まってもらって、「時間がないんだ。早くやって欲しい。」と言ったならば、県庁職員も見事に動いてくれました。私が初登庁したときには、もう既に県庁全体で、その新しい太陽光発電を一気に普及させていく体制が既に出来上がっていました。そして「いくんだー！」と言って、圧倒的なスピード感でいこうと言ったならば、議会、これもきちっとご説明していかなくてははいけない、議会は5月の半ばに招集されると聞きました。5月半ばか、って。もうそれくらい自分の中では「早く早く」っていう思いだった。で、5月半ばに議会が招集され、じゃ議会それだと思っていいたら、よく聞いてみると、5月招集された議会は集まっただけですぐ閉じる。そして1ヶ月間、休会に入ると。6月半ばに始まって、それから議会の審議が始まる。これが神奈川県議会の議会というものでと言われた。冗談じゃないって。夏の6月の半ばから始まったならば、夏の冷房需要なんか間に合わないじゃないかって。とにかく議会が招集されるのだったらすぐやってくれって言ったならば、神奈川県議会もやってくれました。県政史上始まって以来初めて、議会が招集されたと同時に、その太陽光発電の補正予算案を通してくれました。そして6月にまた再開された議会の中でも更に追加の補正予算案を認めてくれました。まさに神奈川県民総力戦でいこうという雰囲気が出たということでありました。そして私はとにかく太陽光発電を早く付けてください、付けてください、というふうなことをアピールしてまいりました。しかし、私は段々その流れの中で学習してくることがいくつかありました。私の頭の中は。早くエネルギーを創らなきゃいけない、創らなきゃいけない、あの原子力発電が無くなっているんだから、こりゃ早く創らなきゃいけないって、その思いが非常に強かったんですが、創るだけじゃ実はないということ。エネルギーを創るだけじゃなくて、省エネ。省エネっていうのも実はエネルギーを創るのと同じくらいの効果があるんじゃないか。それとともに、蓄エネ。蓄エネっていうのは、エネルギーをためる。ソーラーパネルを敷くと電気が生まれます。でも電気っていうのは生まれたときに使わないと実は利用できないんですね。でもこれを蓄電池にためこむと夜に使うことができる。そうすると夜発電しているのと同じことになりますね。ということで、エネルギーというものは、創るだけじゃなくて、創エネだけじゃなくて、創エネ、省エネ、蓄エネ、これを合わせた形で総合的なエネルギーの政策を体系付けるべきだろうというふうに学習をいたしました。そして、私は神奈川からエネルギー革命を起こそう！と言いながらやってまいりました。実は実感として、エネルギー革命は始まったというふうなことを実感いたしました。というのは、さっきも申し上げたように3月の末の時点でソーラーパネルを持ち歩かなければ太陽光発電というのが何だか分からなかった。それが今どうですか。朝から晩まで太陽光発電の話をしていますね、テレビではね。そして、コマーシャルが始まりました。各メーカーがソーラーパネルのコマーシャルを始めました。あと家電量販店。このコマーシャルも始まりました。家電量販店に行ってみると、太陽光発電の売り場がもう既にあります。一気に流れが変わりました。そして国会の方でも動きが出てきた。政府の方で動きが出てきました。菅総理大臣、当時の菅総理大臣は、その1,000万戸付けるんだ、太陽光発電はと。国際公約するような時代になりました。レベルがダーッと一気に広がってきたなという思いでありました。そのときに政府が言っている

こと、新しいエネルギー構想で言っていることは、4年とかっていう時間じゃなくて、2030年。2030年までにこういうエネルギー体系を作るんだと、こういう話。ああそうか。政策として、エネルギー政策というのはやっぱり、それくらいのレンジでやっぱり考えるべきなんだな、予定すべきもんなんだなと。2030年はちょっと遠すぎるなど。政府は2030年に、その全エネルギーの21%を自然エネルギーにするというふうなことを言ってまいりました。

これをもっと前倒しできないか。どれだけのスピードでできるかということ、私は、「太陽経済の会」のメンバーだけではなくて、この県の職員の皆様とともに、専門家も集めて、そして検討をいたしました。そうしたならば、2020年どこまでいけるか提示しましょうということで考えました。それが「かながわスマートエネルギー構想」というものです。

「かながわスマートエネルギー構想」、2009年度、これ年間の電力使用、約502億kWhでありました。

この水準のままから比較してみますと、今、これ2.3%が再生可能エネルギーなどなんです。これを2020年度の目標、これを省エネで、4%分。あと創エネ、蓄エネを合わせてということで16%分。合わせて20%以上を2020年度までに目指します。という新しい方策を出しました。これが「かながわスマートエネルギー構想」というものであります。これは政府が言っているのが2030年にこの再生可能エネルギーを21%という目標ですから、10年前倒しする。だから、これはもう大変高いハードルであることは間違いない。でもこれをやっていこうということでご提示をいたしました。

そして、大原則、そもそも、エネルギー体系をどう考えるか、我々が今一番必要としているエネルギーの形ってどういうことなのかなど。

つまり、第一は、原子力発電に過度に依存しないことではないですかね。依存しないというより、できないですよ。 「脱原発」って言ったとき、私が3月の末に「脱原発」と言ったとき、その後の議論の流れの中で、「脱原発」という言葉自体が、大きく様変わりしたと私は思っています。「脱原発」って言ったときには、それはなるほどなあ、それは原子力発電に依存しないエネルギー体系を作ろうとすることなのかあという話になりましたが、今まで、反原発って言っていた方も、「脱原発」っていう言葉を使うようになってきて、なんかそうすると、それに対して、反対論を言うてくる人が出てくるようになりました。「脱原発」なんて冗談じゃない、原子力は大事なんだ、という話をする。ちょっと待ってくれ。原子力は大事だということは、私は何も否定していませんよ。状況をよく見てください。状況をよく見て現状はどうなっていますか。それは、福島第一原発が、使えるようになるっていうのは誰も思っていないでしょうね。ああいう事故が起きた、全国の原子力発電所は、次々次々止まっていきます。定期点検といって止まってきている。再稼働するといったときに、私はちゃんとした安全基準をクリアすれば、再起動した方がよいと思っていますよ。しかし、それは高いハードルじゃないといけないと思っていますよ。それは安全安心でないといけないのですから。さあ、再稼働したとして、一番のポイントは新しい原子力発電所をつくることを皆さんが認めるかということです。新しい原子力発電所を造るっていったときに、どうなるか、今まで以上に、すごく高いハードルが予想されるでしょう。私はほぼ絶望的じゃないかと思うんです。そうすると、福島第一原発、あそこは耐用年数40年、限界がきていたんですね。限界がきているような原子力発電所が全国でたくさんある。これから、どんどん、つまり新しい原発ができなければ、どんどん耐用年数が過ぎていくんですよ。

そうすると、「脱原発」は良いか悪いかの議論ではなくて、もう「脱原発」なんですよ。

だから、早く新しいエネルギー体系を作らないといけないということでもあります。だから、原子力発電所に過度に依存しないというのは大原則だなど。

次に、だからといってね、原子力発電所は頼れないからといって、火力発電所もう一回、ガンガン石炭でも焚いて、それでCO<sub>2</sub>出してでもこれはしようがないじゃないかとはいえない。やっぱり、環境に配慮したエネルギーというもの、これはとっても大事なことだなあと。

もう一つ我々は学びました。今回の福島第一原発では、私たちは大変いろいろなことを学びましたね。我々の日常生活、この快適な日常生活、夏は家に帰ったときに、ポンとスイッチを押せば、すぐに冷房が効いてくる。寒いときには、プッと入れれば、暖かい空間になる。当たり前前の生活だと我々は思っていました。でも今回皆さん学んだこと、私もそうですが、その生活は、300キロも離れた、あの福島の皆さんに、あれだけのリスクを負わせながら、我々はその生活を享受していたということを学習したのではないのでしょうか。そうしたならばやっぱり、エネルギーというものは、できる限り、地産地消、自分たちのエネルギーは、自分たちの周りで創っていくと、完璧だとは言わなくても、なるべくこれは目指していこうということ、これが大きな原則ではないか。

この3つを大原則として、作ったものが「かながわスマートエネルギー構想」というものでありました。

これで、今、邁進しようとしているところなんです。それでね、私は選挙戦中、こういう言い方をしました、一気に普及させたいんだ、ソーラーパネルは、理論上タダでも付けられます。タダでも私は付けられるようにしますと言った。

そんなバカな話ないだろうと。実はこういうです。「かながわソーラーバンク」という仕組みです。ご自分のご家庭で、ソーラーパネルを付けたいなあとと思ったら、相談窓口を用意します。県が設置します。相談して下さい。そうすると、相談窓口を通じて、いろんなメーカーをご紹介します。施工業者をご紹介します。そうすると、皆さんのお家に調査に行きます。ちゃんとパネルが付けられるかな。どれぐらいの費用かかるかな。じゃあ、これぐらいの形でご提示しますよ。契約します。契約が出来上がったら、今補助金制度があります。県、市町村、国の補助金制度があります。補助金がでできます。それと、今銀行から、ソーラーローン、これ、ソーラーローンって、あつという間に作ってくれたんです。神奈川の銀行は、横浜銀行等が作ってくれました。ソーラーローンがおおりてきます。そうすると、そのお金によって、お金が支払われるとソーラーパネルが設置されます。ソーラーパネルが設置されると、実はここから売電と言って、このソーラーパネルで作った電気というものは、ご自分の家で使うことは当然できます。ご自分の家で使ったら、それによって多分余るんですね、これ。余ったら、それを今電力会社に買い取ってもらうことができます。売電と言って、そうして、ここで、電気を売った収入が戻ってまいります。これをローンの返済に充てていく。ぐるぐる、ぐるぐる、うまく回っていけば、結果的にはタダでも付けられるだろうという話をご提示しました。この全体の枠組を支えるものを「かながわソーラーバンク」と名付けました。それで、試算をいたしました。大体ですね、ご自宅で付けるソーラーパネル、それはお家の屋根が大きい方もいらっしゃる、そうでない方もいらっしゃいますけれども、差はありますが、3. 3kWこのパネルを付けたらどうなるかということ、大体ですね、200万円ぐらいかかる。200万円をどうするかということ、今の現状では、補助金があります。国、県、市町村。補助金、大体、今の現状、平均で、これは市町村によって差がありますけれども、26.7万円ぐらい、これが補助金で出てまいります。そして、売電などのメリット、一体どれ

くらいの規模で、どのくらいのメリットがあるのか。これもね、それは南向きだとか、そうじゃないとか差はありますよ、大体ですけどね、直接私も聞きました。大体、月にね、1万円ぐらいのメリットになるそうです。1万円のメリットがあつて、これが、1年、12ヶ月、12万円。この制度は10年間適用されますから。余剰電力買取制度というんですね。これが、10年で120万、120万と26.7万円を足すと、146.7万円、150万ちょっと切るくらいですね。150万切れるところ。ちょっと、この数字見ないで下さい。146万ぐらい、200万まで、後50万ちょっと足りないですね。今、このままだとこの部分が実は自己負担になるんですね。今の状態だとですよ。

ところがエネルギー革命、私、起きているって言いましたよね。そうしたら、これはもう、証明できる話なんですけど、私がこの話をしたとき、3月の末ですね。3月の末の話はちょうど今の話だったんですよ。ただ今この時点で200万の値段がグッと下がってきています。パネルの値段がどんどん今下がっています。今現在、200万と言っていた話が、180万ぐらいまで来ているんです。だから、あと30何万この部分ですね。この部分がさあどうなるかというところだった。でも、パネルの値段は今どんどん下がっていますから、ここまで下がれば、自己負担なしに限りなく近づいている。でも自己負担あるじゃないか、結局あるじゃないか、タダじゃないじゃないかとおっしゃるかもしれない。実は、余剰電力買取制度というのは3月の末の時点での話でした。

ところが、この制度、本当のタダの制度にするためには一つの方策があつた。それは国会で法律が通らないといけないと。この法律が再生可能エネルギー法案というものでした。これ国会に出ていたんだけど、政府は全然審議をしていませんでした。その再生可能エネルギー法案、何かというと、余剰電力買取ではなくて、全量買取です。ご自分の家で作った電気は、全部買い取ってもらおうと。全部買い取ってもらその仕組みができれば、間違いなくタダですよ。それは、売電収入がもっと増えますからね。そうすると、絶対タダになるんですよ。我々は、早くその再生可能エネルギー法案を通してくれと、強く国に働きかけました。そして、全国知事会にも声をかけました。そうしてやろうって言ったら、8月の末、この再生可能エネルギー法案が成立しました。この法律が通ったということは、実はまさに新しいエネルギーの時代の幕開けということなんですね。というのは、私の友人の金融マン、話を聞いてみると、あの法律が通った瞬間に、全世界から、そのエネルギーに対するいろんな投資の話が持ち込まれてきたということなんです。これから、日本は、エネルギーの体系がどんどんできてくるぞ、これはビジネスのチャンスだといって、一気にその流れができてきているということなんですね。ただ、この再生可能エネルギー法案通りでしたが、実は、いくらで買い取ってもらうのか、どれくらいの期間で買い取ってもらうのかということについては、先送りされています。実際始まるのは、来年の7月ということになっています。

また、実は、我々が全量買取、全部適用してくれと求めたのですが、残念ながら一戸建ては、その適用外にどうもなりそうなんですね。それは何かって言うと、3.3kWが住宅だといいましたね。10kW未満というのは、これは今までどおりの余剰電力買取制度のままということなんです。でも、そこは知恵の絞りようですよ。1軒1軒が例えば3.3kWだったとしても、10軒集まって、これを一つのグループだというふうにすれば、それは33kW、つまり10kW未満じゃなくて、10kW以上になる。それは全量買取の対象になるだろう。新しい制度が始まる時というのは、様々なそういう弾力的な運用というものが行われるものでありまして、我々は、これを国へ要望しているところでございます。これが実現すれば、またタダになるということで、必死にそういうことをやろうとして国と連動しながら働き続けていると

いうところですよ。

それとともに、今は補助金制度があります。ところが補助金制度というのは、正直言いますとそんなに長く続きません。それは、だから早く付けた方がいいですよと私が言っていたのは、今補助金があるからです。早くつけたほうがいい。

じゃあ、あと補助金がなくなったら、じゃあ普及する速度は落ちていくのか。それで落ちたならば、「かながわスマートエネルギー構想」は、実現できませんよね。そのために考えた「市民ファンド」によるお金の流し方ということでもあります。

「市民ファンド」というのを造ります。県民、企業、金融機関等に出資してもらいます。ここのファンドを使って、屋根をお借りします。工場だとか、公共施設だとか、事業所等の屋根をお借りします。「屋根貸し」という制度です。屋根貸ししてお借りして、「市民ファンド」からのお金を使って設置いたします。

で、これで賃料が戻ってまいります。これで運用していくということですね。売電収入で運用してお返ししていく。配当していく。こういう仕掛けをつくります。

だから本当の革命を起こしていくには、いつまでも、いつまでも、税金で補っていくということではなくて、民間のお金が本当に回り始めるということが必要です。

そのための仕掛けを作ろうとしていて、それが「市民ファンド」という発想です。

それとともに私が、わかりやすいという意味で、一戸建ての家はどうやってソーラーパネルを付けていくかということはずっと話をしてきました。

しかし、実際問題として、一戸建てに住んでいる方よりも、集合住宅に住んでいる人の方が多いわけですよ。

じゃあ、うちはソーラーパネルを付けられないのかな。そういうことじゃなくて考えたのが、「マイパネル構想」というものです。

この「屋根貸し」によって、広い面積の屋根、ここにパネルをダースと敷き詰めます。そのときにいろいろ区分します。そうしたら私は、あそこのアパートの何号室に住んでいるんです。

私は、マイパネル、自分のパネルを買います。この工場のこの部分のパネル、これは、私のパネルです。

当然お金を出していただきます。出していただいたそのお金。この売電収入の一部が、その人に戻って来るといって、それはお金にして戻すのがいいのか、商品券にして戻すのがいいのか、いろんな方法があると思いますけれど、そうやってマイパネルという形で、集合住宅にしても参加できるような形にしていきたいと、考えているということです。

こういったことが、すべて、まったく新しいことです。我々が必死で知恵を絞って、神奈川の新しいモデルを作ろうと、やっているというところなんですよ。

で、この6ヶ月間を振り返ってみても、本当にさっき言ったエネルギー革命が始まったな。さっき言ったようにパネルの値段が、どんどんどんどん下がってきているということもあるし、新しい技術がどんどん、どんどん、出てきています。私が6ヶ月前の基準で、考えたときのそのベースになるものと、今現在の基準とは、もう既に全然違っています。

例えばこの流れの中で、非常に大きな鍵を握るのは、蓄電池です。蓄電池の技術というのは、まだまだこれからなんですよ。で、蓄電池、実際あるんですけども値段が高かった。値段が高いし、大きかったんですよ。それをご自分で買って付ければ、それはねえ、昼間作った電気を夜使うことはできますよ。でも、なかなかそれだけのご負担というのは厳しいですよ。ところが、この話をしているうちに、蓄電池の技術は、どんどん進んできました。

技術が進む。どういうことかということ、値段がどんどん安くなり、性能はどんどん良くなるということです。そうしたら、今ある蓄電池の技術で、みなさんが、何が一番使いやすいのかということ、電気自動車なんですね。

電気自動車のバッテリー、あれが蓄電池。使えるんです。だから、太陽光パネルを付けた、それを電気自動車につないだ、そうしたらご自分で使って、余ったエネルギーは、電気自動車にため込むことができる。

ところが、今の電気自動車は、蓄電池として使えるんですが、これは車を動かすための動力源としか今は使えない。ところが、革命が始まったって言ったでしょう、電気自動車の新しいシステムがもう来年すぐ出てくるんですよ。どんなものかということ、ためたエネルギーをもう一回家庭に戻すことができるんですよ。

そうすると、本当の蓄電池なんですよ、これ。日産の幹部が言っていました。もうこれが出てきたら革命的なことが進んでいくって。今、日産の幹部の中で、ギャグのように言っていることがあるらしいですね。結局、新しい電気自動車を買ってもらうときには、タイヤもちゃんと買ってもらえよって。タイヤが無くて蓄電池としていいって言って買われちゃっても困るよなって。

そのくらい新しい電気自動車のシステムがもう目の前まで来ているということなんですね。そういうことも含めて、新しい政策、新しいものがどんどん出てきているとこれは、一気に加速していくという風に思っている。

そんな中で、私は、皆さんのご理解を得ながら、よし、これは早く進めていって、神奈川を早く地産地消のモデルにしていきたいと考えているところであります。

私からのご説明は、まずは、ここまでとしますけれど、事務局から補足部分を説明していただいたあと、皆さんと直接の意見交換というか、ご質問に答えていく形にしたいと思えます。

それでは、とりあえず事務局よろしく申し上げます。

#### (司会)

はい、続きまして、補足説明を藤巻環境農政局新エネルギー・温暖化対策部長より、させていただきます。

#### (新エネルギー・温暖化対策部長)

それでは、お手元に配らせていただいております、このカラー刷りされております資料の中で、今知事からご説明が無かった部分のみを簡潔にご説明させていただきます。

6ページをお開きいただきたいと思えます。資料の左下にナンバー6と書いてございます。

太陽光発電のお話は、今知事からございました。再生可能エネルギーは、太陽光発電以外にも、風力、水力、バイオマス、温泉熱などいくつかございます。まあ、こうした再生可能エネルギーにつきましても、新たに全量買取制度が来年の7月から適用されます。

したがって、こうしたエネルギーについても、新しい制度を活用しながら、あるいは、地域の立地条件を考慮しながら、県といたしましても市町村と連携しながら普及を進めてまいりたいと考えております。

それからその隣のページでございます。7ページでございますが、「省エネ」の取組についてでございます。

ご案内のとおり、それぞれのご家庭では、エアコン、冷蔵庫、照明、テレビなどの電気消

費量が多い機器を省エネタイプのものに、切り替えていただければ、大きな省エネ効果が期待できます。特に、最近ではLED照明の価格が急速に低下しております。ぜひ、皆さんのご家庭にも、まだ電球が残っていらっしゃいましたら切り替えをしていただきたいと思います。

また、ご家庭での「省エネ」を進める上では、電気の消費量を計測する機器を導入して、わかりやすく、いわゆる「見える化」をすることも効果的でございます。県では、地球温暖化防止活動センターで、家庭の省エネ診断や省エネナビの貸し出しなどを行っておりますので、気軽にご相談をいただきたいと思います。

一方、工場やオフィスなどは、経費節減の観点からもこれまでもずっと「省エネ」に取り組んでいただいております。それを少しでもご支援したいということで、県では、中小規模の事業者を対象に、省エネ診断を行いまして、効果的な節電対策の提案をしております。資料では、県の省エネ診断を受けた企業が、電力消費量を制御するデマンドコントローラーという機器を導入いたしまして電力消費を抑制して、年間で38万円ほどの電気の削減を行ったということの例を掲載させていただいております。これは、一例でございますけれども、県の行う省エネ診断では、それぞれの企業に応じて、様々な省エネ・節電対策をご提案させていただきます。

ぜひ、ご利用いただきたいと思います。

事務局からの説明は、以上でございます。

#### (司会)

はい、ありがとうございます。それでは、これから対話に入らせていただきたいと思います。ですが、ちょっと室内の温度が上がってきているようですので、お暑い方はどうぞ、遠慮なさらず、上着を脱いで対応いただければと思います。

では、まず、ご意見のある方は、手を挙げていただきまして、こちらで、マイクをお持ちいたします。まずは、お住まいの市区町村名、お名前、匿名でも結構でございます、言っていた後、ご意見をいただければと思います。お一人様3分以内をお願いします。

それでは、知事にマイクをお渡しします。

#### (知事)

これから私自身が、半分キャスターで、自分で進行していきますから、私がお答えしてまいります。どんどん聞いてください。はい、じゃあ、手を挙げてください。どうぞ。

#### (参加者)

私、一般人で、黒岩知事に質問するのは、もう、一生に一度のことだと思いますので、とんちんかんな質問になると思いますので、お許しくださいます。

相模原市は、福島事故が起きたときに、お祭りを中止しまして、その分経費を福島のために全力を注いでやってきました。そのかわりJCの若い子達がお祭りを企画して一生懸命やってくれたりという形で、市役所に行っても職員の人たちがかわいそうと思うくらい省エネ対策をやっております。

それで、知事はどの仕事も大事にしなければいけないと思うのですが、リニアが相模原市に来るのを楽しみにしております。リニアの方もエネルギーに通じるものがあると思うんですね。それで、リニアが来る可能性が何パーセントなのかと、何年後ぐらいなのか、大体でもいいので、どれも大事にしなければいけないので答えられる部分でかまわないので答え

ていただきたいのと、あともう1つだけ、選挙のときのポスターでは青いマジックを持って写真に写っていらっしやったんですけど、そのとき私は、よく青いマジックを使っていっぱい、いろいろ書いていたんですが、あの青いマジックの意味は何だったのか。この2つをお聞きしたいと思います。あと、相模原市は、もう本当に黒岩知事にみなさんエネルギー対策、みなさん一生懸命、市町村はじめ協力すると思います。思いますじゃない、します。以上です。

(知事)

はい、ありがとうございました。リニアですけど。やっとな、国の方でもやると決まりましたので、工事が始まりますけれど、神奈川県、相模原の一番の大きなポイントと言いますと、リニアをどう通すかというよりも、駅をどこに造って、その費用負担をどうするかということが最大の問題となっています。

リニア、確かにすごい電気を使うんですね。それで大丈夫なのかなって、正直、私も本当に大丈夫なのかなと不安に思うところがあります。ただ、まあすぐにできる話ではありませんからね。東京と大阪をつないでいって、しかもこの辺りは地下ですからね。相模原は、地下をずうっと掘っていきますから、相当時間がかかる、あれ、いつごろ完成予定なでしたかね。相当先です。

(会場から)

2023年。

(知事)

2023年、2023年ですか。はあ。

(会場から)

名古屋まで。

(知事)

名古屋まで、2023年ですからね。2023年頃までは、相当エネルギーの体系が変わってきているんじゃないかなと、我々は期待しているところであります。これは、国策として決めている話ですから、それは、今さらどうこうというのではなく、我々の神奈川県の課題は、駅をどうするのかということだと思いますね。

青いマジックは何だというご質問でありましたけれど、あれは実は早稲田の大学院の公共経営研究科の授業をやっているときのたまたまの写真ですね、選挙の直前まで大学院で教えていましたから、そのときの授業でこうって書いていたときの、たまたまその時、青いマジックを持ってまして、それ以外にあまり意味はありません。

はい、ありがとうございました。はい、他に。どうぞ。

(参加者)

横浜市から来ましたイトウです。みなさん、今日はこのような会を開いていただきありがとうございます。何点かあるんですが、まず、このような構想が実現されたらかなり素敵だなと思うのですが、ここに来られる方はかなり限りがある方だと思うんですね。全

3回、これからあと2回ある中で、どれだけの人がこの知事の構想というのを、神奈川県構想を知れるか、そして具体的にそれぞれが動いていけるか、というポイントがあると思うんですが、ぜひ、マスメディアで、知事の構想、神奈川県としての構想を取り上げていただきたいと思うんですが、マスメディアを使って伝えるということを考えていらっしゃるのか。

あとは、私は横浜市から来まして、今、実際、「脱原発」の動きが大きくなったのも、国策である原発が事故を起こしてしまったから、この「脱原発」の動きが大きくなっていると思います。実際、今まだ進行中の原発の事故。収束もしていません。これから放射性廃棄物の問題等、横浜でも今焼却灰など、どこも東京もそうですが、がれきの受け入れやいろんな課題があると思うんですけれども。横浜市と行政との対話を今重ねているんですが、どうも組織図っていうか、私は神奈川県知事が神奈川県トップにいますって思ってたんですね。横浜市もその下に、ちゃんと管轄でコントロールできる立場。会社じゃないけど、社長とか会長とかいうようにも思っていたんですが、どうやら違うと。そこを明確にさせていただいて。放射線対策本部っていうのがありますが、その本部の中身は空っぽなんですよ、横浜市。で、実際追っかけたら、ほんと空っぽで。それで、市議会議員が、常任委員長と常任副委員長3人が、放射線対策本部の3人が、今度ドイツにサッカー交流に行っちゃうんですね。命かかっています。まず、「かながわスマートエネルギー構想」ももちろん大切ですし、横浜市としてもどういうふうにやっていくのかとか、大切だと思うんですけど、今起きている現状、出ている放射能に対してどうするのかということも、神奈川県としてどう考えているのか、県知事としてどう考えているのか、教えていただきたいです。

あと、さっきリニアのことがあったんですが、国策だから、国策として決めたことだからってことだと、原発と同じだと思います。原発も国策で決まっていたことが、今こんな事故になっています。私はリニアは反対です。なので、そうではなくて、神奈川県としても独自で持続可能な街にするか、かなり汚染も進んでいると思いますが、持続可能なもの、構想ってものを、ぜひ、リニアとか、そういった全部、全体的に考えていただきたいと思います。

あとは、ソーラーローンは横浜銀行以外で、ほかに銀行があったら教えていただきたいです。あとまだいっぱい話したいことありますが、11月の終わりの方の県庁にも行きたいと思っています。よろしくお願いします。

### (知事)

はい、ありがとうございます。こうやって対話の広場、何度繰り返してもなかなか900万人もいらっしゃいますから、全員というのはなかなか難しい。でも、私はできる限りこういう機会を作っていくって、お話をしていきたいと思っています。このエネルギーに絞った形の対話の広場は今回3回ですけども、それ以外の対話の広場というのもやっています、それは地域版。私は「マグネットかながわ」と言って、マグネット、磁力を持ってその地域がもっともっと魅力的になろうよという、このための対話の広場というのを今、県の7か所ですべて回っているところなんです。そのときにも、テーマはこの地域をどう活性化させるかということではありますが、皆さん、私が新しいエネルギー構想を出したものですから、それに対して当然ご疑問もあるでしょうから、ということで、今日みたいにたっぷりではありませんけど、ある程度の時間を使ってお話をしています。そして、質問があれば書いてくださいと言って、それを書いていただいたものを限られた時間ですけどもお答えをしています。



ないでしょうね。いま、下水汚泥や焼却灰、下水を処理したあとの汚泥やそれを焼いた後の灰ですけど、ここにも放射性物質が出ているわけですね。8,000ベクレルという国の基準が出てきたんですけども、8,000ベクレルを超えない部分については問題ないから、埋め立てなんかに使いなさいと言って国は指針を出しているんですね。ところが、実際問題として住民の皆さんの気持ちとしては、そんな冗談じゃないって。8,000もあるんだったら嫌だって言う。数字って分からないものですね。8,000というのが多いのか少ないのかよく分かりませんよ、ああいう世界ってね。今までずっと慣れ親しんできた単位じゃないですからね。8,000って言うてみたり、何か0.0マイクロシーベルトとか言うてみたり。8,000はベクレルだとかとか言うてみたり。何か突然十万だとか、何を言っているんだか、わけが分からないですよ。だから、まだ皆さんの気持ちはそこまでいってないから、いきなりはいどうぞって受け入れるっていうところにはまだいきません。国はしっかりした指針を示して、そしてそれに対する啓蒙活動をもっともっとやってもらわないと、今いきなりはいどうぞと言うわけにはいきませんよということ。こういうのを今答えているところですね。で、そういうことを国としてちゃんとやってくれということは、昨日ちょうど霞ヶ関に行って訴えてまいりました。陳情してまいりました。

リニア反対だとおっしゃいましたね。いろんなお考えの方がいらっしゃるでしょうけれど、例えば、原発は国策だから反対だという話と、リニアの話と違うところはですね、原発はその地域においてみればその地域の話なんです。ところが、このリニアっていうのは、通ってこそリニアですからね。これ、神奈川は通してもらっちゃ困るという話ではないんじゃないかなと思うんですよ、これはね。そういう意味で国策である。ただ、駅の話は別ですよ、駅は神奈川独自ですから。神奈川、駅要らないって言うんだったら、神奈川の地下をずっと通って行く、ということになる。そういう意味での、私は国策だという思いで言ったんですね。

ソーラーローンを組んでる銀行、これも早かったですよ。いま、横浜銀行、それから神奈川銀行、横浜信用金庫、スルガ銀行、さがみ信用金庫、JAバンク。これが、早くもソーラーローンを作ってくれています。こんな早い時間に新しいローンを作ってくれたという、これもやっぱり革命の1つの証拠だと、私は思っています。はい、ほかに。どうぞ。

#### (参加者)

貴重なお話ありがとうございました。藤沢市から来ました、「レッズ湘南」という非営利市民団体を立ち上げた者です。「レッズ湘南」というのは、Renewable Energy Developersの最後の「s」を大文字にしてREDS湘南という団体を立ち上げたものです。この団体は、「みんなで作り、みんなで活かす再生可能エネルギー」という言葉を合言葉にして市民の協働によるクリーンなエネルギーのクリアな活用というのを目指していこうという趣旨で立ち上げたものです。で、具体的にやろうとしていることは、ちょっと、先ほどの知事の「市民ファンド」を活用したソーラー電池、市民発電所の建設なんですけれども、私、今日の今日までこのビジネスモデルを県で検討されているというのは不勉強で、まったく同じようなことを検討されていて、非常に驚きとともに、自分もそういったことを考えているので、ぜひ関わっていきなさいというふうに思っているものです。そして、今日の対話にあたって、2つのお願いというか要望と1つの質問がございますので、伝えさせていただければと思います。

まずはじめは、こういった活動をしている市民団体があるということ、スタートしたとい

うことをご理解いただくとともに、活動のご支援をいただきたいということです。再エネの開発とか活用というのは、やっぱり莫大なお金と広い土地とか資産とか資源が必要となると思うんですけども、これは一部の大企業さんとかが手がけることっていうのもできるんですが、資産や資源をお持ちの自治体と資金を持つ企業や個人、ノウハウやネットワークを持っている市民団体がつながることで市民協働で作るっていうこともできるんじゃないかなと思っています。こういった市民協働の開発と活用というのは、先ほどの知事のお話にもありましたけれど、結局市民一人ひとりの意識とかコミットを高めて地域を活性化して人々のつながりを高めることにもつながっていくというふうに考えています。なので、ぜひ大企業さん等の大規模開発だけに頼るんじゃなくて、市民協働による開発というのも積極的にやっていくべきんじゃないかなと思う。そういった活動をする市民団体等もご支援をいただければ幸いだというのが要望でございます。

2点目の要望は、再生可能エネルギーの活用状況とか、目標達成状況に関する情報提供あるいは情報共有の推進をお願いしたいということです。先ほど知事のお話でも、選挙のときに皆さんにお話してピンとこなかった、エネルギーの話ってなかなかピンとこなかったというお話をされていたかと思うんですけども、私自身も電気の、今まさにここで使っている電気の7割ぐらいが火力発電でまかなわれていて、2割ぐらいが原子力で今もまかなわれているということを伝えても、やっぱり電気には色がないので、止まっちゃうと意識が高まるんですけども、普段のこういう生活の中でなかなか皆さんの意識、再生可能エネルギーに電気を替えていくんだという意義が伝わりにくくて苦労しています。で、苦労しているからこそ、皆さんの意識を変えつつ行動につなげると、その行動につなげるためにはやっぱり明確な目標が必要で、そういった意味で知事の2020年に20%以上というのは極めて具体的、明確ですばらしいと思っています。で、この目標と現状はどうかというギャップから行動が生じると思っています。これを常に今後、情報を見える化というか県民全体で今のくらいまかなわれていて、あとどれくらいいつまでにまかなう必要があるのか、いつどのくらい増やしたら実現できるのか、そういうことを発信していくことが大事なかなと思っています。これから個人の皆さんも企業も団体もいろんな方々が多分再エネの開発とか導入を進めていくと思うんですけども、これからこういった情報を集約することで、県としてどのくらい集まっていて、いま県としてどれくらい再エネの導入が進んで、総量としてどれくらい目標に到達できているのかということ把握する、把握して情報発信すると、そういった仕組みを検討していただきたい、というのが第2点目の要望です。

最後、質問1つだけなんですけれども、先ほどの方の質問にも関係するんですが、「スマートエネルギー構想」の目標と市町村との関係です。県内市町村との関係ということで、2020年に20%以上という目標を県として掲げられていますけれども、この県というのは市町村から構成されているわけで、藤沢市、私が住んでいる藤沢市も含めて市町村も同じようにそれぞれの市町村で20%以上を目指していくべきなのか、それぞれの自治体判断で任せていくのか、そのへん何か先ほどの関係に絡めてこの構想に対して市町村に対する考えについてご説明いただければと思います。

#### (知事)

分かりました。ありがとうございます。

最初に、そういうNPOですか、活動をされているということなんですけれども、これは、今度新しいNPOに対する支援の税制が、国の方でもできました。それによって、寄付のお金

がずいぶん控除されるということになりましたから、その認定がされれば、ずいぶんその活動は幅広くできるようになってくると思います。

今日みなさん、ね、発表されたから、そういう活動をやってらっしゃる方がいらっしゃるんだということを告知されたでしょうし、そういう支援ということについても私も積極的にやっていきたいと考えているところであります。

それから、2020年にさっき言ったように「創エネ」「省エネ」「蓄エネ」合わせて20%以上と言いました。2020年までの間どうなっているのか、情報をちゃんと出していけ、これはまさにご指摘のとおりでありまして、これはその都度その都度、今はどこまで来ているということをしつと情報を提供していこうと思っています。私は、おそらく勘としてはですね、こういうふう（正比例の直線）に行くんじゃないかとね、こういうふう（逆放物線）に行くと思いますね。たぶん。ある程度、やっぱり準備期間というか、こうあって、それが来て、ドーンと行くと思いますよ。ただ、ここを走っているかどうかの差が後で圧倒的に出てくると思っているので、早く早く早くと言っているところなんです。

それで例えばね、究極の姿というね、極端な話ですよ、こんなことも理論上あり得るということでお話すると、地産地消の究極といたら、お家が東京電力から一切電気、電線から引っ張らなくても自立できる。こんなことになったらいいと思いませんか。太陽光発電を、ま、ある程度の大きさのお家は必要になるかもしれませんが、太陽光発電ぱっと敷いて、蓄電池しっかりできていて、そしてさっき言った省エネのいろんなノウハウをどんどん入れていって、他のエネルギーの使い方もどんどん入れていって、結果的にはお家が独立してるって。こういうふうなことだって実は夢じゃない。そうなればすごく安全安心な、こう社会ができていくんじゃないかなって思いますよね。ただ、そういう夢に向かって行こうよ、というところだと思うんですよ。

県内市町村と県との関係のことをおっしゃいましたけれども、これは競争です、はっきり言って。市町村の競争ですよ。藤沢なんていうのはね、今すでに、かなり先を走っていますよね。藤沢、すでに現状で。かなり前から市内の中学校とか高校の屋根にどんどんソーラパネルを敷いてらっしゃるしね。今度、パナソニックと組んでサステナブルスマートタウンという環境配慮型の新しい都市ができる。こういうことも始まっています。あとは競争ですよ、それは。その競争には、どんどん行くところには県はどんどん支援していきますよ。県は大きく旗を振っているだけ。あとは、まさに、そこの住民の皆さんが「うちはこんなことやろうじゃないか。」「この土地を使ってこんなことやろうじゃないか。」というのをどんどんどんどん作り上げていただく。そういうことがやっぱり大事じゃないかなって。待つてちゃだめですよ、何かやってくれるんじゃないかなって待っている。これじゃだめです。競い合って、それでみんなで参加することによってこのエネルギー革命を進めていきたいなあって思っています。はい、ほかに。どうぞ。

#### (参加者)

大和市のセキといいます。2点お願いします。

先ほど、知事がおっしゃいましたが、今回の地震、津波、それから原発の事故で我々いろんなことを学んだわけですけど、一番学んだ大事なことは、原発の事故が起きると、もうそこには人は住めなくなるかもしれないということですね。それで神奈川県には、幸いにして原発はありませんけども、隣の静岡県には浜岡原発というのがありますし、それから110キロしか離れていない茨城県には東海第二原発というのがあります。この2つは、決し

て廃炉するということが決まっているわけではなくて、多分再稼働を目指して、原発を推進する政府とか、あるいは市町村もそうだと思う。東海村の村長さんは廃炉にするようにという願いをしましたがけれども、浜岡については、地元は推進する立場ですから、今は菅総理がお願いしたことで停止していますけれども、多分、安全を確認した上で再稼働という方向になっていくようです。でも、もし、あそこは言うまでもなく、大地震が起きると言われているところですね。明日にも起きるかもしれない。もし、あそこで大地震が起きたりしたときに、どういうことが起きるかという、今回の福島の場合は風向きが幸いにして西風でしたから、ほとんどの放射能は海に行っているはずですがけれども、もし、浜岡で起きたらほとんどの放射能はどこに行くのかといったら神奈川県に来る。そうすると神奈川県全域がほとんど人が住めないという状況になるリスクが非常に見えています。もし、事故が起きたら確実にそうなるだろうということが予測できるわけです。こういう状況の中で、我々は原発の地元ではないけども、その浜岡は廃炉にしてほしいということを県として強くお願いするべきではないかと思えます。それと東海第二も同じです。村長さんがいくら言っても無理だと思えますけれども、神奈川県としてもそういう近隣の自治体として強く要請をするべきではないかと思えます。

もう1つは、地産地消ということで、このご説明いただいた6ページに再生可能エネルギーのことが書いてありますけれども、神奈川県には箱根という温泉がありますけれども、自然エネルギーのことが語られるときにどうしても地熱エネルギーのことがあまり言われないうですね。今回どういうふうに扱われるかと思って楽しみにしたんですけども、温泉熱の利用ということで非常に小さな扱いになっています。でも、日本はすでにご存知だと思いますけども、地熱のエネルギーについては世界で第3位の資源を持っているといわれているんですね。それでその地熱エネルギーを使えば、かなり大規模な発電ができるということは、ニュージーランドとかアメリカとか、いろんなところですでに実証されているわけです。日本には、そういう技術はたくさんあります。ニュージーランドの地熱発電所はほとんど日本の企業。神奈川県には幸いにして、箱根があります。で、私は、あそこの大涌谷の辺りに巨大な地熱発電所を作って、箱根や小田原や神奈川県の西部の電気は、すべてこの発電所が作ってますよというような、大規模なものを作って、それで太陽光パネルと合わせてですね、神奈川県をエネルギー革命の最新の県だというふうに言えるような形にしてもらいたい。ぜひ、その地熱発電についても、こんな温泉熱の利用などという取ってつけたような小さなことではなくて、もっと大々的に箱根を地熱発電の聖地にするぐらいの気合を入れて取り組んでいただきたいとお願いたします。

### (知事)

浜岡原発の件についてはですね、私も非常に不安を持っていました。それで、しかもあそこは、地震がくる確率が非常に高いと言われていながら、しかも活断層の上にあるという、ちょっと普通に考えれば常識では考えられないなという、そこにあるのもう早く止めてほしいということをやまず言いましたし、川勝知事にもしっかりとわざわざ会いに行ってお話しもしました。だから、まさか再稼働かというときは、ちょっと待ってくれということはもう一回改めて言おうと思っています。そこは同じような思いであります。

その地産地消エネルギーの地熱エネルギーの話が出ました。確かにそうなんです。我々も当初は、新しいエネルギーの体系の中で地熱エネルギーということを中心に据えていたんですが、実は箱根の方からの抵抗が非常に強いんですね。これが、正直なところ。

これはみんなの合意の下で作っていかないといけないんだと思うんですよね。箱根の皆さんは、その地熱発電によって熱が奪われて温泉の温度が下がってしまうのではないかと、非常に心配されているんですね。そういうことを地元がすごく心配されている中で、強引にやるということもできない。実は、研究してみると、温泉熱発電というものがあるんですね。だから、とりあえず、今の段階としては、その温泉熱発電というものを、これは箱根町もやりたいと言ってくださっているの、これをまずはやっ払いこうかなと思っている。

本当にその地熱発電をやると、温泉の温度が下がっちゃうのか、どうなのか 科学的な検証をやっ払いしていかないといけませんからね。研究はやっ払いしていききたいなと思っています。他にもこのエネルギーはいっぱいあります。これ、面白いですよ。こんなことがあるのかっていうぐらいね。いろいろなのが出てきますけれどもね。だから、その、太陽光発電というのはそういういろいろな中でもやっぱり強力な、やっぱりアイテムだと思いますね。

実は、さっき「屋根貸し」っていう話をしましたね。「屋根貸し」って例えば、この間も言ったんですけど、京浜臨海部に行ったら、工場がダーッとあるわけですよ。あそこにね、メガソーラーを造ってあるんです。メガソーラーというのは、地べたに造っているんですね。広い土地に造ってあるんですが、神奈川の場合にはですね、よその県に比べて、空いている、自由に使えるメガソーラーができるような土地というのは少ないです。ところが、上から見ると工場の屋根っていうのは、ドオーと空いているわけですよ。あれを全部屋根貸しで貸してくださいと言って、ドオーと敷き詰めたらすごい太陽光発電のエリアができてきますね。そういうことも実はあり得る。「屋根貸し」ですから工場にとってみても賃料が入って来るんだから決してその無駄なことじゃないという話も直接聞いています。だから、いろんなことを、知恵を絞っていききたいなと思っているところです。

#### (参加者)

知事、ありがとうございます。私は地元で家電店をいたしております、東林間のタドコロと申します。よろしく願いいたします。

2、3点ちょっとご質問がございます。

先ほどの「かながわソーラーバンクの仕組み」というパネルがあったんで、ちょっと出していただけませんかでしょうか。どうもありがとうございます。実は、このパネルどこかで見たことがあるなと実は思いました今考えていたんですが、実は群馬県の太田市というところがございまして、こちらの市ではですね、もう既にこの神奈川県ソーラーバンク構想とほぼほぼ同じような構想をですね、1年程も前から実施をされております。で、このパネルを見たときにひょっとしたら同じシンクタンクの方が作られたのかなというような感じを持ちました。それで、私、群馬県の太田市にたくさん知人がおりまして、今現在どうなっているのというふうに聞きましたら、実はパネルのメーカーを市の方で入札をしたということでありました。それは、国内のメーカー、それから中国メーカー、それからいろんな方式がありますから、いろんな方式の方が入札をされて、最終的に中国のパネルメーカーと、それからマグ方式という方式のメーカーが2社残られまして、最終的にはそのマグ方式のメーカーさんが採用されたと聞いております。私たちも一生懸命、ポスト地デジということで、できるだけ地元の市民の方と共同して、少しでも再生可能エネルギーの、このソーラパネル構想を進めたいと、実は思っているんですが、地元の人のお話を聞きますとパネルメーカーが指定された結果、ほとんどの方は参入できなくなったと。これは量販店さんも一般の電気店も同じような形だそうです。そういうことで、今いろんなパネルがあると。で、ランニングコスト、

それからイニシャルコスト、いろんな形で、ただただ値段が安いだけのことではだめなんだよと。発電効率もあるいは日本の屋根のように小さい屋根に乗せるときは効率がよくなきゃいけないとか、いろんな条件があるんで、そのへんは注意深くご配慮いただきたいなということが1つ。

それから、一番右の下にですね、市町村と国補助金というのが書いてあります。私どもは、相模原市です。川ひとつ隔ててお隣は東京です。東京は、私たちの相模原の市民から比べるとだいたい3.5倍ぐらいの補助金が出ています。神奈川県は、今、おそらくキロワット2万円程度だと思んですけども、お隣の東京は10万円出ております。1キロで10万円と1キロで2万5千円ですか、その程度の差というのは4倍は違うわけですから、ぜひこういう構想を考えられているんであって、プロデュースをしていただいているんですから、県の方の補助金も、ぜひぜひ考えていただきたいというふうに思います。

それと最後になりますけれども、今、実はこの間、3.11で東日本大震災が起きました。神奈川県も、実は東南海地震が起きたら、あれと同じような被害が出ると言われております。先程、京浜工場地帯のようなお話がありましたけれども、あの辺はほとんど津波で水没すると。それと同時に、ほとんどの地区は、東京電力の送電に頼っておりますんで、電気は止まってしまうということにもなります。お隣の東京はですね、石原知事、猪瀬副知事の発案で、国に対して100万kWの東京電力の危機管理発電所を造ってくれという要望が出てるといふふうに聞いております。お隣の神奈川県も大きな県ですから、ぜひ、そういう大震災のときに、県の組織が全部停電によって止まってしまうことがないように、このソーラーバンクシステムも非常に大事なことですが、県のやはり危機管理も、もう一つしっかりやってもらいたいと。

で、やはり知事さん先ほどね、リニア新幹線が出ました。これ、神奈川県としては非常に大きなことなんです。何年に開業するだろうと、やはり事務方に聞くんじゃなくて。是非ですね、こちらに、何と言いますか、傾けるエネルギーも非常に大事なことですけども、それ以外にも傾けていただくこともたくさんあると思いますので、そのへんを一つしっかりお願いしたいと今後思います。失礼なことを言いまして誠に申し訳ございません。ありがとうございました。

#### (知事)

太田市の話は、私ちょっと存じあげませんでした。実は正直申し上げてこのモデルというのは、「太陽経済の会」で作って、ある山陰地方のあるところで実験的にやっていたんです。実は、で、この流れを作って、これはうまくいけるなというので、それを神奈川バージョンにちょっと修正して、そしてご提示しているというところ。それを、太田市が真似たかどうか、そこは私も全部把握していませんが。考えてみれば分かる話なんです、実は、これ。パネルを敷いてそれがお金を生むとなったら、うまく流れを作っていけばローンを返済できる。だから、一番のポイントは実はソーラーローンなんです。これ実はね。ということだと思います。

それでパネルのことで入札のお話がありました。これはですね、実はこういうふうに考えています。パネルそのものと、それを設置する仕事と、これを切り分けて考えたいなと思っ

例えばそれによってさっき言ったソーラータウンがね、新しい町を造ってくるといったときに、どれだけ需要が出てくるかと。電気自動車も作っていきこう、じゃ電気自動車の急速充電器も作っていきこうと、新しい産業がどんどん出てくるわけですね。これによって経済を活性化させていきたいと思っている。それによって、雇用も生んでいきたい。県内の業者も潤っていききたいと考えているわけですよ。だから工事の部分は、これはもう神奈川県内の事業者のみなさんにどんどん仕事が出てくるという形にぜひしたいと思っている。パネルについては、安い方がいいですよ。安くても性能がいい方がいいですよ。だからそれはもう競争です。

で、実は、今度県が一つやる新しい試みとしてですね、やるのはリバース・オークションというものなんです。これは実験的にちょっとやるんです。ある公園に付けるソーラーパネルをね、ちょっと実験的にこれリバース・オークションでやってみよう。リバース・オークションとは何かというと、オークションって分かりますよね。「これ、いくらですか。」と言ったらどんどんみなさん値段を吊り上げていきますよね。それで一番高い人がこれを落とすことができるっていう。リバース・オークションっていうのは逆なんです。値段を下げていくんです、どんどんどんどん。「はい、このパネル50万、40万、30万、20万。」って一番低い人が取るという。こういうふうなリバース・オークション。そこに入ってくる業者というのはある程度そのパネルはね、ある程度品質ということは証明された上で、一番安い値段で取っていくっていうね。これ実際やってみるんです。その代わり、その仕事は、設置の仕事は全くこれとは別というふうにして県内業者にちゃんと経済的な効果を、潤うようにということでは考えているところです。

それと、県補助金ですね。これ東京とずいぶん違うじゃないかと。これはつらいところですね。これは、正直に。それは神奈川県も同じように、東京と同じくらいに補助金を出したいのは山々ですよ。しかし、県の財政というのも非常に厳しい状況がありましてね、なかなかそうはいかないという状況の中で知恵を絞ったということです。さっき言った「市民ファンド」というのは民間のお金をうまく集めてきてファンドにして流していくという大きなお金の流れを作っていくという、そういうことを作っていきこうと思って、今ご提案しているところでありまして。それと、東京がやっているその天然ガスの新しいプラントを作るんだという話であります。あれは神奈川、川崎にあるものなんですよ、実は。川崎に見学に来られて、あれを東京でも造りたいと言っているんですね。実は、そういう意味からすると、神奈川っていうのはエネルギー最先端の県なんですよ。LNGという天然ガスを使った大きな発電プラントが実は神奈川にも既にあります。

これはですね、どう判断するか。さっき私が言った、新しいエネルギーの体系の中で「原子力発電に依存し過ぎない」、それから「環境に配慮している」、それから「地産地消を目指す」ということからするならば、この天然ガスの火力発電というのは、中に入っているんです、現状では。天然ガスの値段はかなり今下がっているんですよ。だから安いし、それから、環境にずいぶん配慮した形のものが出来上がっているんで、その中には入るんですよ。だから、これを積極的に推し進めるというのもひとつの方策だと思います。ただ、これは輸入した化石エネルギーであることは間違いないですよ。今は安いですけど、これから先どうなるのかっていうのは分からないところはまだまだありますからね。だから、これは今急場をしのぐためには非常に重要なエネルギー源だと思いますけれども、しかし、もっと自然再生エネルギーをどこまでできるかというのは、まず先に優先課題としてやるべき話なのかなと思っています。

それから神奈川にはね、すごい水力発電があるんですね。揚水発電と言ってね、私これを見に行きましたけれどね。2つの湖、段差があって下の湖から夜間電力を使って水を大量に上の湖に上げるんですよね。で、貯めてあるんですよ。これは危機管理なんですよ、まさにおっしゃった危機管理。つまり、ピーク時で皆さんが一番電気を使うとき、そのところを保てるかどうかってところがエネルギー政策の一番のポイントなんですね。これが危ないなってときにはね、その上の水門をバーンって開くとね、圧倒的な勢いで上の湖の水がダーンと流れてくるんですよ、下に。それでいっきにその水力発電によって電気を補う、揚水発電というのを既に神奈川は、既に持っているんですね。これもすごいものですよ。だから、そういうものはいろいろあるんですよ。うまく組み合わせながら、まず、当面、真っ先に我々が突っ走って行くところは再生可能エネルギーをどうやって広げていくかということだと思っています。はい、他に、どうぞ。

#### (参加者)

私、相模原市南区相模台に住むサチと申します。以前私はゴミの焼却場の建設のときに、公共サービスを民間資本を使ってやる方法ということで、PFI法というようなところをちょっと勉強してきたのですけれども、最近ですけど、相模原市もゴミの一般最終処分場にメガソーラーを設置するという話が出まして、調べましたら川崎市の浮島もやっているようで、神奈川県としてもそういうメガソーラー構想というのが現実にあるのかどうか、一つお聞きしたいということと、市民とか企業団体が出資してそういった事業をやるような、ここでは「市民ファンド」というような名称で書いてありますけれども、日本政策投資銀行なんかだとそういうことも持っているというふうに伺っていますけれども、そういう事例が神奈川県であるのかどうかお聞きしたいというのが1点。

もう1点が、集合住宅などで、ここでは「マイパネル構想」というのを打ち出していますけれども、集合住宅だとオーナーさんが管理組合等を作ってやっているのだけれども、そういうケースだと発電施設等が共用となっております、なかなか負担の問題とか、リスクの問題とか非常に難しい事態があるのではないかと感じておりますので、そのへんのことで少しお解かりだったら教えていただきたいと思います。以上です。

#### (知事)

はい。ありがとうございます。メガソーラーの計画はあります。これは今、土地を選定しております、そこに進めていこうということ。これを今進めております。県内のどこでできるのかと土地を洗い出していますから、そこはもう早急に手をつけていきたいと思っています。

それと「市民ファンド」についてのお尋ねですが、このアイデアを検討している中に、政策投資銀行の人も入っています。研究会を我々は持っているのですけれども、政策投資銀行の人の貴重なアドバイスなんかも入れながら、今その仕組みを作っているというところです。その事例の他にあるかということですが、これはどうですかね。何の事例というか民間資金を入れて、PFIみたいなことですかね。

#### (環境農政局長)

茅ヶ崎市で市民の方からお金を集めてソーラーパネルを設置して売電をしているという事例が県内では一つございます。

(知事)

はい。ありがとうございます。

「マイパネル構想」、もう一回ご説明しますけれども、集合住宅の人は自分の屋根に付けられないじゃないかということで、「マイパネル構想」を考えましたと言ったので、実はその時のマイパネルというのは、ご自分の住んでいるアパートの上にパネルを付けるだけじゃないのです。その一種のフィクションなのですが、全然違ったところにメガソーラーがバーンとあったとしますね。自分の家と離れているでしょう。でも離れたところでも、「あれは、私のパネルです。」と言って買ってもらうのです。それで売電収入で戻ってくるという。こういう仕組みになっている。自分の家で作り、直に結び付いているというだけではないのです。だからマンションのいろいろな管理組合の規約がなんだとか、そのマンションはそのこの上に付けられるのかどうか、住民の皆さんの合意を得るとか全然別の話なのです。このアイデアをどこから持って来たかという、植林活動をするのにこういうのがあるのですよ。あるアーティストが植林活動に対して支援したいと言って、やった仕組み。チケットを買うでしょう。チケットを買うとそこに番号が書いてあるのですよ。というのは、チケットを買うとそのチケットのうちの何パーセントのお金で植林活動をするのですよ。「あなたの木はあそこの木です。」と言って、1本毎に、植林は面ですけれども、「あなたの木はあれです。」と言って、一種のフィクションですよ。でもそれをやると、例えばその状態をインターネットで確認することができる。寄付って皆さん、大きなお財布の中にぼんぼんぼんぼんお金を入れて、本当に使われているのかなとか思ったりすることあるのではないですか。そうじゃなくて、自分の出したお金は「あそこのあれになっている。」というように直接つながるといこと。その仕組みを「マイパネル構想」という形で作っていいこうと思っているのです。

はい、他にいかがですか。どうぞ。

(参加者)

横浜に在住のクワハラと申します。先ほど、家電店さんのご質問の後にございました、リバーズ・オークションについてなのですけれども、知事もよくご存知の通りだと思のですが、パネルによって1kWのパネルを付けた場合でも、そのメーカーさん、性能によって年間の発電量というのは異なってきます。それによってメーカーさんの方も販売価格というのも変わっているというのが、現状だと私は認識しております。今、おっしゃっていたリバーズ・オークションの方法をとってしまうと、逆に性能が低いものばかりが設置されてしまって、日本の狭い屋根では難しい。逆に発電量が減ってしまう状況になるのではないかというふうに、私は危惧を感じました。そちらをどう考えているかということと、ソーラーバンクのシステム、それと今のマイパネルの構想は、いつから始めるご予定なのか。そちらのところを伺いたいなど。4点ごめんなさい。ソーラーバンクのシステムで県内業者が潤うようなお話がございましたけれども、では県外業者が入ることができないようにするのかどうか、県内を守っていくためにはそういったことを実施していただきたいと思っておりますが、そういったところをどう考えていただいているかを教えていただければと思います。お願いいたします。

(知事)

はい。ありがとうございます。リバース・オークション、今回は実験的にやってみるのです。ご心配されるような向きも多分あると思いますが、そういうことも含めて選ばれてくるのかと思っています。それを見ながら、これは本当に大々的にやっていけるのかどうかというのを、実験的にやってみたいなと思っているところです。

「ソーラーバンク」をいつから始めるのかということについて、年内を目指しています。今、その体制をとってできるだけ早くと思っていますから。年内を目指しているということです。

県内業者さんを私はぜひ優先したいと思っています。だからといって、県外から来るなどもなかなか言えないものですよね。それは。この自由競争の経済の中で県外業者は一切お断りというのはなかなか言えない。要するに県内業者をなるべく優先していきたいというところがぎりぎりかなと思っていますけれども。

#### (参加者)

藤沢市だと補助金で差をつけるとか、県内の業者さんにはこの額、県外の業者さんはこの額というふうに分けて、藤沢市内の業者さんを守っているという事例があると思いますけれども、そういったことであれば県の方でもできる内容だと思うのですが、いかがでしょうか。

#### (知事)

分かりました。県内業者を優先したいという気持ちは。ではどうしたらできるか。これは検討課題とさせていただきます。いろいろなアイデアもあると思いますから。気持ちはあるということですから。他に。どうぞ。

#### (参加者)

相模原市の東橋本から来ましたナカノワタリといいます。非常に今日は興味あるお話をいろいろ伺いまして、ありがとうございます。またこういった機会を持ったということに関しては感謝したいと思います。私は現役のころは太陽電池とか蓄電池関連の仕事をしていたのですが、1つは知事が今日お話されたことの中で、特に数値目標を挙げられたということは、非常に立派なことだと思っています。かなりリスクはあるとは思いますが、そういうことをやったことによって、実際目標を達成するためにどういう困難があるのかということが明確に浮き彫りにされてくるということで、また次の手も打っていけるだろうと思います。

話は2点ありまして、1つは「スマートエネルギー構想」というものを掲げられましたけれど、日産さんが地元で電気自動車のリーフなんかも製造されている工場がすぐそばにあるのですが、やっぱりそういうものの普及のためにはインフラの整備が欠かせないわけで、そういうことを考えますと、相模原市は特に充電設備が非常に立ち遅れていると考えています。実際、日産のリーフなんかはアメリカのカリフォルニアとかそういうところに輸出されているのが現状だと聞いていますので、そののところが是非県の方でもしっかりやっていただきたいということが1点。

もう1つはバイオマス関連で、確かに発表された中でもバイオマスでの発電等いろいろ取り組まれているとあったのですが、実は相模原市は神奈川県で最大の森林面積の22%を相模原市で、自治体としては最大の森林面積を持っています。しかし実際、森林の状況をいろいろ私なりに調べたところでは、かなり手入れが立ち遅れているというか、特に間伐材なんかの対策が非常に遅れていると理解しています。そののところが是非地元のいろいろな木質バイオマ

スを使っていただきたいということと、それから発電ということになると結構規模も大きくなってしまいますので、それだけじゃなくて、木質ペレットのストーブとか、木質、木炭などを使ったストーブの普及にも何らかの援助をお願いできないかなということ。これは私の周りにもそういうことを考えている人はたくさんいるのですが、実際は木質ペレットのストーブはかなり高いです。輸入物がほとんどで、国産ではなかなかいいものがない。そういうことへの援助等をもし考えていただければ、林業対策、地産地消のエネルギーということで、かなりいろいろできるのではないかと考えておりますので、ぜひよろしくをお願いします。

### (知事)

充電設備等々がこれインフラが立ち遅れている、いう話ですね。これは神奈川県全体としてみれば、例えば東京と比べると随分進んでいたりするのですけれど。これは松沢知事の功績だと思っただけですね。電気自動車を押し進めてきていましたから、これは進んでいる。もっと普及させていくためにはさらに充電設備を増やしていかなければいけない、と言うことはあると思います。この間見せてもらったのですが、超急速充電設備というのが実は出てきたということですね。だからさっきから言っているように革命だ！革命だ！と言っているのは、本当に新しい技術がどんどん出てくるのです。今、電気自動車って、つないで充電するのに何時間もかかる。電気を充電するのにね。今度の新しい超急速充電器は5分と言っていましたよ。5分といたら、普通のガソリン車でもガソリンを入れるために5分くらいかかりますよね。ガチャンといたら、5分で充電して走る。こういうのが出てきているので、だからそういうものとの見合いも大事ですよ。普及させたはいいけど、古いタイプばかり普及させたら、実際にニーズがあるのは超急速充電器の方だと。こういうのもありますから、そういうのも視野に入れながら進めていかないと、電気自動車の普及にもなりませんからね。これは重要なご指摘だと思って考えていきたいと思っただけです。

それから木質ペレットストーブということ。やっぱり何が嬉しいかという、私、そういう話、あまり知りませんでした。こういう新しいアイデアをいただくというのは非常に嬉しいです。いろいろなところから持って来られるでしょう。「こんなのあるのですよ。あんなのあるのですよ。」と言って。「ああそうですか、そこまできましたか。」といういろいろなことがあるのですけれど。つまりバイオマスの発電所、これも川崎に大きなのがあるのです。33,000kWという、もの凄くでかいやつです。バイオマスというのは例えば建材、廃材とかをチップにするのです。木材のチップに。それをバイオマスの技術として活用するとか、コーヒーの豆の搾りかすとか。いろいろな廃材のようなものを、廃棄処分にするようなものを集めて、バイオの技術で電気を起こすということなのなのですが。これも実は実際に直接話を聞いてみますと、いろいろな法の規制が邪魔をしているところがいろいろあるということです。法律の規制を外せば、もっとこのバイオマス発電というのはできるのだということを現場に行き行って聞いてきましたので、やっぱりそういうことをやっていかなければいけないですね。風穴開けるためには。旗を振っているだけじゃなくて。具体的にこの話を進めていくためには、これが壁になっているのだということになったら、これは取り除いてくれという話。これは国にちゃんと要望していく話だと思っただけです。規制の部分についてはこれからさらに要望していきたいと思っただけですが、木質ペレットのストーブというか、これもなかなか面白い話ですね。改めて持ち帰って研究させていただいて何ができるか考えていきたいと思っただけです。他に、どうぞ。

### (参加者)

伊勢原から参りました、イシマルでございます。

(資料) 7ページで説明がありました、県のアジェンダセンターの相談コーナーに出ているのですが、エネルギーの問題に非常に関心がありまして、ぜひスマートエネルギーやスマートグリッドについて伺いたいと思って来たのですが、お話を聞きますと、地域を安定させる地産池消エネルギーですね、家庭で作ったエネルギーも含めてですが、それを含めて地域と思っているのですが、その中で電気の話が非常に多いのですが、熱エネルギーをどう地産でやるのかと、こうなりますと、先ほどの「屋根貸し」ですね、遠くにある屋根を、パネルの電気を電線を通して、地産池消というエリアもあると思うのですが、むしろ隣近所で作ったエネルギーをどう分かち合うかというので、高効率エネルギーのたとえば燃料電池のエネファームというものなんかも、ちょっと家庭では無理だけれども、ちょっと規模を上げれば使えますよと、というのもできればですね、先ほどファンドの話も含めて、たくさん名乗りが挙がっている、横浜銀行も含めて挙がっているのですが、ぜひ、使い勝手がいいファンド、自分たちで作ったエネルギーに対して融資がもらえとか、投資ができるとか、そんな仕組みも、小回りの利いた、柔軟性のあるものにしてもらえれば。そのへの傾向が知りたくて。お考えになっていることを伺いたい。

### (知事)

熱エネルギーというのは、確かに重要な要素だと思いますよね。一番シンプルなんですよね。屋根にタンクを載せておけば熱くなってお湯ができるという。これと組み合わせというのがありますよね、太陽光と太陽熱の組み合わせっていうのも実はあるし、それを地域全体でやってくるというような形も実はある。だから、やろうといういろんな知恵が実はありますからね、それをひとつひとつ、何をやっていくのかを地域で決めていくということ。これは、やはり大事かと思っていますけどね。

それからさっき言ったように、それがもっと進んできたら、その地域は東京電力の電線を引かなくても、この地域だけで電力の自立という夢のようなそんな形も目指していけるだろうと。革命が起きているというときは、いろいろ新しいものが出てきますから、アンテナを張っていただいて、これはいけるぞ、これはいけるぞ、と、どんどんご自分でやっていかれるというのが一番いいんだと思いますね。我々も敏感にアンテナ張って、対応できることはどんどんスピード感持ってやっていきたいと思っています。はい、どうぞ。

### (参加者)

今日は本当に分かり易く説明していただきありがとうございました。相模原市のフクダと申します。10月24日の毎日新聞に、黒岩知事がソーラーに関して失速しているという記事が出ていました。こういう形が出ていましたけど、今の話を聞くと、私はそれなりに理解できまして、本当に一生懸命やっているんだなと思いました。ありがとうございます。

それからですね、福島原発。私は福島の出身なんです。で、知事が「脱原発」を目指していることを聞いて非常に嬉しく思いました。それと同時に、この便利な生活が300キロ離れた、福島から送ってもらっているんだ、こういう話を私は聞いたのが初めてです。恐らく東京都の石原知事もそういうことは言っていないでしょう。他の首長さんも言っていないと思います。これはやはり福島の佐藤雄平知事に聞かせてやりたいと思っています。ありがとうございました。

それで、私は、知事に1点ですね、知事は一生懸命やっていますので、これは、ソーラーバンク、あるいは、スマートエネルギーを全力をあげて進めてもらいたいと思うんですね。どうしてもいろいろと障害がつかますけれども、これはぜひやっていただきたいと思います。神奈川県から最大の発信をしていただきたいと思っております。それからちょっと余談になりますが、昨日もテレビに出ていましたけど、ポリオワクチンの件で、これは知事、がんばってください。よろしく願いいたします。

#### (知事)

失速は絶対自分の中ではしていないつもりなんですけれどね。いろいろな表現はあるでしょうから、4年間で200万戸分という話と、先ほど話した2020年の「スマートエネルギー構想」とは違うじゃないかという。まあ、違うことは違います。これについて失速したのか、とか撤回したのか、とかいろいろと言われますけれど、私の気持ちの中ではそういう気持ちは全くない。高い目標に向かって早くこのエネルギー革命を進めていきたいと思います。これはやっぱり、県がいくら旗を振ってもできませんから。みなさんがその気になってやっていくという。そのために、ご理解いただけないんだったら、一生懸命説明する。その積み重ねしかないなと思っているので、今日やって来てご説明した次第であります。

今、海外からメディアがいっぱい取材に来ているんですよ、実は。なぜ海外から取材が来るかといったら、海外の視点で面白いらしいんですね。みんなの着眼点が同じなんですよ。エネルギー政策というのは国がやるものでしょう。それを神奈川県で、県が、県がやっているという。で、県が太陽光発電だ、と言って、いつの間にか総理大臣まで言い始めて。そういう形でのエネルギー政策が変わろうとしているのはどういうことですか、というのが面白いらしくて、もう、イギリスからもドイツからも中国からも何社も来ていますよ。そういうふうに、ある種目立っているという、目立っているということによって僕が期待しているのは、これによって、海外の一番の技術だとか、いろんなものがどんどん、神奈川に、神奈川にとって目指してやって来て、神奈川の経済のエンジンをさらに回していくということにつながりたいなと思っているところでもあります。だんだん時間もなくなってまいりました。どうぞ。

#### (参加者)

相模原市中央区の陽光台から来ました、サカモトと申します。私は10年ほど前に自宅に太陽光発電を乗せました。現在まで上手いこと売電しまして、元は取れませんが、稼動しております。実はですね、公共施設への導入についての補助金について、ちょっとお伺いします。と申しますのは、私が所属しておりますのは、太陽光発電ネットワークPVさがみはらという任意団体です。目的は太陽光発電を普及させるということで活動しています。公共施設につきましてはですね、つい最近、去年の暮れでございますが、この近く、市内でございます、大野台子どもセンターというところに、市と協力をいたしまして、共同作業で太陽光発電システムを設置しました。この資金の出所なんですけど、85%がグリーン電力基金から補助をいただきました。残りの15%について、相模原市と我々PVさがみはらが寄付を募ってですね、企業さん、それから市民の方からの寄付を募って資金を集めまして、完成をいたしました。そういう1つの例ではございますが、このグリーン電力基金がですね、22年度でもって打ち切ってしまいました。非常にこれは困るんですね。ご存知のようにグリーン電力基金は、東京電力が、皆さん方、結局、我々から500円ずつ徴収して、同じく500円をあげて、ということで両方で基金ができたわけですね。これが取りやめになってしまいまして、非常に、こう

ということでやはり先立つものはお金ですから、資金集めで困ることです。県の考え方はどうなのかというのをお聞きしたいと思います。

#### (知事)

それも含めて、先ほど申し上げた「市民ファンド」という新しい仕組みの中でそのお金が回っていくという。これ、お金がないと基本的には進まないですからね。そのお金をどこから持ってくるのかということ。今まではグリーン電力基金というものが一つの大きな役割を果たしたということがあったでしょう。これからは、だから新しい永続的な仕組みを作っていきたいということで、早くこの「市民ファンド」を立ち上げて、それから運用もうまくやっていけるような、そういう仕組みを早く作っていきたくてお思いますので、強力にそれを進めていきたくてお思っているところです。では、後ろの方、どうぞ。

#### (参加者)

相模原の上九沢、津久井寄りの方なんですけれども、電気店キャンディーをしておりますササノと申します。6月だか5月だかちょっと忘れたんですが、FMヨコハマを聞いていましたところ、黒岩知事が出演されておまして、どうも神奈川県は黒岩知事が当選されてから、太陽光パネルを付ける家庭が、黒岩知事が何かしてくれるので、他の都とか県から比べると遅いということで、そういう指摘を受けていることに対してのインタビューみたいな形だったんですけれども。そのときにですね、今付けても、後から、ソーラーバンク構想ができてから付けても、同じように、付けたときの金額が負担にならないようにする、ということをおっしゃったんですよね。で、それから僕はFMヨコハマを聞いていないので、どうなったか分からなかったので聞きたいということと、それからあと、ソーラーバンクの仕組みがあったんですが、年内を目指しているということをおっしゃられて、そうなりますと、例えばパネルメーカーが決まった場合、パネルの量が相当だと思えるんですよね、そのパネルの量が相当だということで供給できるのかという点と、それから、設置用相談窓口ということが書いてありますが、相談窓口を各市に設けるのか、県に設けるのか。それから、パネルが決まると施工IDという、施工業者は知っているんですけれども、メーカーによって決まっているIDを取らないと施工ができないんですけれども、それを持っていない業者とかは、公募協定からは落ちてしまうのかということをお聞きしたいんですけれども。よろしくお願ひいたします。

#### (知事)

はい、わかりました。

私がタダでも付けられるということをおっしゃったわけですね。理論上。その意味はこういうことだということは先ほどお話をしました。

そして、「かながわソーラーバンク」というお話をしたときに、聞いておられた方は当然そう思われたでしょうけれど、「かながわソーラーバンク」ができれば、タダになるというふうに思われたかもしれない。そうするとそれまで待っていようと。先ほどのポリオのワクチンと似たようなところがあるんですけれども、できるまで待っていようということで、実は逆に付けようというのを待っている形になった方も中にはいらっしゃったと思うんです。それはまずいな、ということで、早く付けてください、ということをおっしゃった。早く付けてください。損をさせませんからということをおっしゃった。損をさせないというのはどういう意

味かという、グリーン電力証書というのが実はあるんですね。これは、環境に配慮した形で電力を自分で作ったということを証書にしてカウントしてもらって、それを後でお金になって戻って来るというのが実はありますので、早く付けた人にはそういうのを皆さんにご提供していこうという形で、早く付けた人が損をしないような形というものを作っていつているところなんです。

これはなかなか難しいところがありますね。正直言って。例えばテレビなんかもそうでしょう。大型のブラウン管のでっかいテレビがありましたね。それがまさに革命的にどんどん薄くなって、値段もどんどん安くなっていきましたよね。ああいうときに、じゃあ、いつ買えば一番得なのか、みたいなことはなかなか難しいですよ。

ずうっと待っていて、今だったら、もうでっかいこんなきれいな液晶パネルが10万円もしないで買える。ちょっと前まではあんなのが5、60万したでしょう。進んでいるときというのはそうなんですよね。だから、待っていればいいのかと思う人は必ず出てくる。

ただ、私が今言っているのは、これだけは間違いがない。補助金があるのは今だけです。これは、補助金を使ってやりたい人は早くやったほうがいい。「市民ファンド」もどうせ立ち上げますけどね。なるべくそこのところうまくやっていますけれど、補助金を使ってやりたい人は今だけです。それは早く付けていただいた方が絶対いいと思いますけれどね。

あと、「かながわソーラーバンク」そのものが、いろいろな業者さん、この業者さんは我々は信頼できますよということを県民の皆さんにご推薦していけるような形、いろいろなクレームも全部窓口なんか我々が受けていく、そして皆さんのご要望を全部一手に引き受けてワンストップでそういうものに答えていくという、そういう仕掛けを実は考えています。こういうのをちゃんとやらないと、変な業者さんが変なものを付けて、そのことによって雨漏りがいっぱいしまして、メチャクチャになりましたとか、それが突然落ちてきて怪我しましたなんて言われたら、もうせっかくのエネルギー構想全体がだめになってしまいますから、そこは県の責任でしっかりと品質の管理とかをやっていききたいなと思っているところであります。ちょうど時間となったようであります。いい感じで、じゃあ、お二人だけ最後いきましようか。はい、どうぞ。

#### (参加者)

ソーラーパネルはとていいことだと思うんですね。特に夏場の電力需要に対して非常に高い位置で電力ピークがある。それを皆さんが太陽電池、パネルを付ければ夏場の電力需要が平均化するというので、非常にいいと思うんですけど、ただ、地震が起きた際に、パネルの重さというのが、非常に、地震国として、重さがあって取り付けることに抵抗があると思うんですね。そこで、なるべく軽いものを開発していただきたいというのが1点と、あと深夜電力の有効使用というんですかね。今、蓄電池が県内で注目されていますが、深夜エネルギーがまるまる全部使えるとしたら、要するに今の発電需要が半減できるという効率的には非常にいい使い方ができるということで、太陽パネルもそうなんですけれども、蓄電池を各家庭に置いてもらって、今、いいものができていますので、それを太陽パネルと両方使えば、非常に効率のよい発電と使用ということで、今までのエネルギーの倍使えるという、今の設備です。そういうことを考えていただければ非常にいいことだと思います。本当はもっと前にやっていただければ一番よかったと思うのですが、一応、そういったことを念頭に考えていただければと思います。

(知事)

はい、わかりました。それでは、最後に、ご質問だけ先に受けましょうかね。

(参加者)

大野で床屋をやっているアキヤマです。今日はありがとうございます。

一つお願いしたいのは、先日、石巻に行ってきたのですが、女房と、これは小中学生が修学旅行で東京タワーに千回上るよりも、ぜひ現地に行った方がいいなあと思いました。自分の幸せが分かるためには、ぜひ現場を見た方がいいと思いました。

もう一つ、お客さんを50年から見ていますが、最近、夢遊病者のような方が多いですけど、それだけ人間が脊髄を抜かれたように、お父さんたちに給料が直接渡らないんですね。神奈川県では職員には、お父さんにぜひ直接給料が渡るようにしてほしいんですね。お父さんが輝いて見えるためには、輝くだけのものを手にしないと、子どもから見ても、お父さんお母さんに輝いてほしいので、神奈川県の職員さんにはぜひお願いしたい。神奈川全員が元気が出るように。

(知事)

ありがとうございました。本日を締めくくるのにすばらしい、元気をいただく質問をありがとうございました。

先ほどの質問ですけれども、ソーラーパネル、これは、日本は地震国で、台風もありますし、重いパネルを乗せて大丈夫かという、実は競争というのはそういうところも含めての競争が始まっているんですね。どんどん質が良くなっていく、質が良くなるという中には重さがどんどん軽くなるということ、発電効率がどんどん良くなる、値段が下がっていくということ、こういうことが今動き始めていますからね、そういうことはご指摘のとおり、こういうのは1回事故が起きてしまうと、本当にマイナスになる可能性が非常にあるので、そのところは慎重にやっていきたいと思っています。軽くなっていくというのはとても重要な要素だと私たちも思っています。

蓄電池との組み合わせというのも、まさにそうでありまして、これは、さっき言った、今一番早いのが電気自動車、今度、年が明けたら発売される新しいシステムを付ければ、電気自動車はもう完全に蓄電池として使えますから、ソーラーパネルと蓄電池、電気自動車となったときには、本当にもう自分たちで自立できるようなエネルギー体系ができてくるということですね。

あとそれから皆さん、どこかその仕組みを作るとかだけじゃなくて、やっぱりその家のあり方そのもの、たとえばカーテンちゃんと引いているだけでも熱を入れないとか、いろんな生活の知恵というものもいっぱいあるはずなんですよね。そういうことも全部含めた上で、限られたエネルギーを有効に使って、我々は生活していこうじゃないかという、そういう流れを作っていくということ、それを今から始めたいということでもあります。

今日は2時間5分となりましたけれど、今日、質問できなかったという方は、申し訳ありませんでした。この会はあと2回ありますので、今日、質問できなかった、このことだけは改めてぜひ聞いておきたいということがおありの方は、他の会場にもぜひお越しください。今日はどうもありがとうございました。